

**私** 達は何のご縁か、スイスに暮らしています。クモの糸のような細さかもしれませんが、私達1人1人がスイスと日本にかかる橋なのではないでしょうか。その最初の礎を築いたスイス通商使節団は今から丁度150年前に来日しました。1863年4月横浜に着いた使節団の一員であったカスパー・ブレンワルド(1838~1899)の日記が語る当時の様子は大変興味深いものがあります。

当時の日本は既に米英など7カ国と修好通商条約を結んでいたため、物価は高騰していたようです。前年に起こった生麦事件の賠償金支払い問題も持ち上がっていたことから、スイス通商使節団の条約交渉は困難を極めていました。彼らはオランダ公使館が置かれていた江戸の長応寺に滞在して交渉を求めていましたが、幕府側は2ヶ月経っても明確な返事をせず、横浜に戻るよう強制したため、とうとう6月5日には役人との間で小競り合いが起きてしまいました。ブレンワルドはその日記に「我々は皆武装していたから、誰も武器に手をかけなかったのは幸いだった。そうでなければ流血の惨事が起きたかもしれない」と生々しい状況を記しています。その後も使節団は、「空腹の中、灼熱の太陽の下で5時間も待たされた」末「世界一優しい顔」で奉行並は「自分はこの状況を今聞いたばかりです」と答えたりなど、したたかに交渉を延ばそうとする幕府に翻弄され続けます。しかしスイス人の粘り強さのお陰で、8ヶ月以上にわたる長期交渉の末、1864年2月スイス通商使節団は、日本にとって8か国目となる修好通商条約をスイスと締結させることに成功しました。これが日瑞の橋の第一歩なのです。

ブレンワルド自身はその後横浜で日本初の外資系商社の一つであった「シイベル・ブレンワルド商会」(現DKSHジャパン)を設立し、生糸の輸出等を手掛け、駐日総領事を務めるまでになりました。彼は、日本への派遣が決まった1862年12月から離日直前の1878年2月まで約15年にわたり、ドイツ語、フランス語、オランダ語などで5冊、548ページの日記を綴っていました。当時の日本に、これほど長期間滞在した外国人の日記は非常に珍しい

ということで、横浜開港資料館が現在も全訳を進めています。翻訳を終えた部分は既に、同資料館で閲覧できるそうなので、機会があったら是非読んでみたいものです。

**在** 日本スイス大使館は、2013年秋から2014年夏までの1年を「日瑞友好150周年記念年」とし、企画を募っています。現在ロゴが完成したばかりで、前号の会報にも記載されていましたね。それに先駆ける形で初訪日するバーゼル劇場の紹介は『音楽の処方箋』第3回で書かせて頂きましたが、日本へ向けて出発直前の出演者の生の声をお届けしたいと思います。

6月18日に日本へ向けて出発するのは、オーケストラのバーゼルシンフォニエッタ、2名の日本人を含む合唱団と合わせて総勢95名。『フィガロの結婚』4公演、コンサートが3回あり、全部で5都市を回ります。

伯爵を歌うクリストファー・ポルデュークはアメリカ人でメトロポリタン歌劇場にデビューも決まった注目の若手バリトン。バーゼル劇場の演出では『フィガロの結婚』の舞台を現代のロサンゼルスに移しているので、金髪で端正な顔立ちの彼は、この伯爵にピッタリの配役です。「僕は日本に初めて行かれる事をとても楽しみにしています。観光のために数日滞在を延ばしたので、この美しい国を体験し、短期間でも可能な限りの文化を吸収したいです。」とインタビューで語ってくれました。

伯爵夫人はダブルキャストが組まれており、1人目のカルメラ・レミージョは20年来モーツァルト歌いとして名声を博しているイタリア人ソプラノ。バーゼル劇場日本ツアー直前にも、ローザンヌで同役を歌っています。彼女の恩師である故アルド・ブロッティの妻は日本人で、2人の息子と同じ世代のレミージョさんを家に泊めてレッスンしてくれたということもあり、大の親日家です。「モーツァルトの音楽が要求する洗練されたスタイルと、頭で考えるのではなく魂で考えることの必要性、感情をあからさまに表現しない厳格さ、これらは皆、日本人の特性のようだ」と憧れを持って意識しています。そんな日本の聴衆の前でモーツァルトを歌うことに意義を感じます。」と熱く語ってくれました。もう1人はアメリカ人のジャクリン・ワグナーで、ポルデュークと並ぶとハイソで美しいアメリカ人伯爵夫妻が実現されるのです。ワグナーさんもご主人と一緒に訪日を楽しみにしています。

スザンナ役もダブルキャストで、スイス人のマヤ・ボグは2009年に放映されたテレビ版オペラ『ボエーム』のヒロイン役ミミを歌って一躍有名になりました。「初めての恋人が大の日本好きで、彼は剣道を、私は柔道を習っていました。それら、私の中に長い間インプットされていた情報を実際に体験できることにワクワクしています。」と話してくれました。もう1人はイタリア人のロザンナ・サヴォイアで、一度日本でリサイタルの経験がある彼女は日本のアニメの大ファン。「現在、オペラ歌手として日々研鑽を積む人生に役立つような辛抱強さは、『アタックナンバー1』や『エースをねらえ』などのスポ根マンガから学んだ」と断言しています。

フィガロ役も2人いるうち、ブルガリア生まれのフランス人エフゲニー・アレクシエフは「日本とは何か切っても切れない縁をずっと感じていたので、沢山の本を読んでいろいろ勉強しました。愛読書は吉川英治の『宮本武蔵』。武士道や禅宗に惹かれるので、自分は侍の生まれ変わりではないかと本気で思うこともあります」と言うほど。もう一人は韓国人の李應洙で、隣国との交流に意欲的です。ケルビーノ役はドイツ人のフランツィスカ・ゴッドヴァルト

で、「本当に初めて日本に行けるなんて、大きな喜びです！日本文化に対する好奇心でいっぱいなので、もっと長く滞在できたらいいのになあ、と思うほどです。早く日本の聴衆に会いたいです。」と舞い上がっていました。合唱の日本人女性は、1人が公演地富山のご出身、もう1人は同僚のために日本観光を企画しているそうです。これら95人の「スイス文化使節団」が日本を大好きになってくれるといいなと、このツアーを企画した側として願って止みません。

国際関係の基本は個人同士の友情だと信じている者にとって、文化交流は意義深いと痛感します。150年前に架けられたスイスと日本の橋をより強固なものにしたいと願ってやまない皆様は、是非日本のお友達にも以下の処方箋をお勧め下さい。

#### バーゼル劇場初来日公演 オペラ『フィガロの結婚』

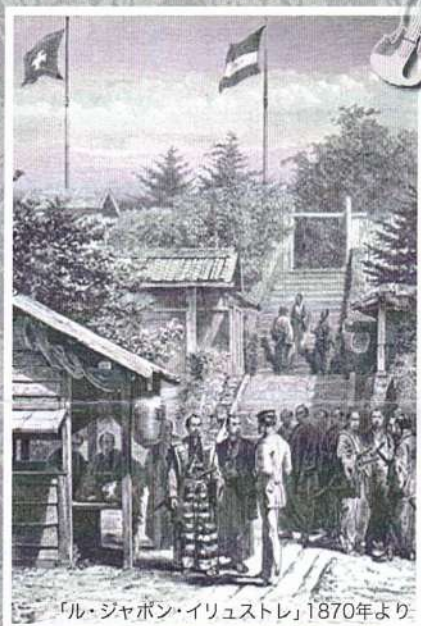
6月22日 愛知県立芸術劇場、26日 富山オーバードホール  
28日 東京文化会館、30日 滋賀県立びわ湖ホール

#### バーゼル劇場初来日公演 コンサート

6月23日 「カルメラ・レミージョとエフゲニー・アレクシエフのモーツァルト&ヴェルディ アリアの夕べ」名古屋市東郷町町民会館  
24日 「ジャクリン・ワグナー ワグナーとヴェルディの生誕200周年記念リーダーイベント」日経ホール、7月3日 「バーゼル劇場初来日記念5大モーツァルトオペラからのガラコンサート」キタラホール

## 音楽の処方箋

文/中東生



### 第8回 スイスと日本にかかる橋